

国語 第6学年 書き手の考えを内容の理解、テーマについて考えを述べ合おう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：考えるという言葉について書き手がどのように説明しているかを、文章の展開と事例を手がかりに読む。書き手の見方を自分の学習や生活の経験に当てはめ、当てはまる部分と説明が必要な部分を分けて自分の考えをまとめる。C(1)オ・C(1)カの学習として、「考える」についての意見メモ。書き手の説明との対応を示したうえで、友達の意見から加えた視点を追記する。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、本文の説明を基に考えることへの自分の意見をまとめ、交流の中で考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：「考える」についての意見メモを残す。書き手の説明との対応を示したうえで、友達の意見から加えた視点を追記する。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：日常の持論だけを述べて本文が根拠にならない。書き手の意見に賛成することが正解だと思う。これについて、「書き手の説明」「経験の実際の場面」「そこからの自分の判断」を別の欄に置く。経験が抽象的な場合は、何を迷い、何を確かめ、どう判断したかを尋ねる。〔知識及び技能〕(1)カとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「書き手のいう「考える」を、自分の経験で説明するとどうなりますか。本文と経験のどこがつながっていますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：「考える」についての意見メモは紙に記録できる。書き手の説明との対応を示したうえで、友達の意見から加えた視点を追記する。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：哲学的な話し合いになって收拾がつかなくならないか。

返し：C(1)オ・カの学習なので、話題を広げる際も「どの本文の説明から考えたか」に戻す。経験を出すこと自体より、本文との関係を明らかにした発言を取り上げる。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「書き手のいう「考える」を、自分の経験で説明するとどうなりますか。本文と経験のどこがつながっていますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

